

令和8年度 高大連携タイボランティア研修について

2026.8.19 担当者：教諭 山田 真人

令和8年8月6日（木）から8月12日（水）までの7日間、本学学生10名が、連携協定を締結している愛知大学と共同で、タイのチェンマイおよびバンコクにおいて海外ボランティア研修を実施しました。チェンマイでは、山岳民族の子どもたちが生活する児童養護施設を訪問し、3日間にわたり寝食を共にしながら交流を深め、かけがえのない絆を築くことができました。バンコクではスラム街の幼稚園を訪問し、厳しい生活環境の中



で暮らす子どもたちの現状について学びました。また、仏教寺院の見学や現地の食文化の体験を通してタイの歴史や文化への理解を深めるとともに、世界遺産アユタヤ遺跡では象に乗る貴重な体験もすることができました。この研修を通して、参加者は異文化理解を深めるとともに、世界の貧困問題について考える貴重な機会を得ることができました。

（2年生 生徒感想から一部抜粋）

この一週間で、私は今まで経験したことのない多くの出来事を経験しました。そして、自分がどれほど恵まれた環境で生活しているのかを改めて実感するとともに、多くの方々の支えがあったからこそこのツアーに参加できたのだと強く感じました。

特に印象に残っているのは、スラム街の訪問です。カサロンの家では、親がいなかったり家庭の事情で育ててもらえなかったりする子どもたちと交流しました。子どもたちはとても明るく、言葉が十分に通じなくても一緒に歌ったり遊んだりしてくれました。その姿から、困難な状況の中でも前向きに生きる強さを感じました。

一方で、クロントゥーイ幼稚園では厳しい現実を目の当たりにしました。前夜に両親から放置されていたために泣き続けていた子どもの話を聞き、大きな衝撃を受けました。また、支援物資を届けるために訪れた家々では、想像以上に厳しい生活環境を目にし、貧困問題の深刻さを痛感しました。

しかし、この旅で出会った人たちはみな笑顔でした。カサロンの家の子どもたちやスラム街の人々、愛大生やチームの仲間たちの笑顔は今でも強く印象に残っています。また、初めての海外で観光地を訪れたことも楽しい思い出となり、家族や普段の日常のありがたさを改めて感じました。

この経験を通して学んだことや感じたことを多くの人に伝えられるよう、今後の事後活動にも積極的に取り組みたいと思います。この貴重な経験に感謝し、まずは自分にできることから行動していきたいです。タイボランティアツアーに参加できて本当に良かったと心から思っています。

